

科学英語合宿 (Science English Intensive Program)

SSH アメリカ・フィンドレー大学海外研修にむけて

2014年6月17日 発行

日程:平成26年6月14日(土)～15日(日)

場所:御津国際交流会館

SSHアメリカ海外研修に備えて、科学英語合宿が1日2泊で実施されました。

《参加者》 アメリカ・フィンドレー大学参加者 15人

《指導者》 三垣雅美(英語) ジェーン・オハロラン(英語) 宮内伸弥(理科) 寒川匡哉(理科)

特別英語講座の講師 アメリカ・ライト大学からのインターン2人 シエラさん アシュレーさん

6月14日(土)1日目



図1 牧山地区での採水

オハロラン先生のアイスブレイキング活動を通して、仲間同士の親睦を深めつつ、英語で自己紹介に挑戦しました。Additional information(情報をどんどん付け加えること)や、わからない単語はジェスチャーや絵を描いて相手に伝えていくことも大切だということ学び、より面白くてインパクトのある自己紹介ができるようになりました。

午後からは、2グループに分かれ旭川の中流域に移動し、水質調査のために河川の水を採取しました。その後持ち帰った水のCODを始めとする汚濁物質の濃度を測定し、その年間運搬量を計算して求めました。アメリカでも、水に関する講義を受けたり水質調査を行う予定で、これはその事前学習の一環です。さらに今後も事前学習が続き、出発までに十分見識を深めていきます。

6月15日(日)2日目



図2 アシュレーさんと

午前中には、シエラさんやアシュレーさんがレッスンを行ってくれ、フィンドレー大学で学習する際に必要になってくるScience Wordsを覚えていきました。また、日本とアメリカの習慣やタブー視されていることの違いをあげ、滞在中の心構えについて考えるとともに、アメリカ出身のお2人に、様々な質問もしました。「研修期間のアメリカの気温は？蒸し暑い？」「アメリカ独立記念日は休日ですか？」生徒の期待感が伝わってくる活発なコミュニケーション活動になりました。アメリカ研修には、まだまだ準備しなければならないことがたくさんありますが、この合宿のおかげで、団結力を強めて出発することができそうです。

生徒の感想

- 前回のSEIPよりも、周りとの協力することができた。原稿などを見ることなくプレゼンができるようになった。
- 積極的に英語で話しかけようという気持ちが強くなった。
- もっと知っている単語を増やさなくてはいけないと、改めて感じた。
- このSEIPに参加して、今まで以上に積極的に物事に進んでいくことができるようになりました。この調子で、いろいろなことを進めていきたいです。
- 海外でなにかテーマをもって研究することは、自分から動かないと始まらないと思った。水はとっつきやすいテーマだから、これからも意識して取り組みたい。アメリカの野外調査が楽しみになってきた。